

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

10月報

インフルエンザ定点(小児科定点を含む)

インフルエンザ : 報告数7件(前月比-, 前年比0.1)でした。例年並みに低い値で推移しています。今後は、冬期に増加していくものと推測されます。

小児科定点

(全体傾向)

報告数4,304件(前月比1.30、前年比1.28)であり、前月比及び前年比はやや増加しています。感染性胃腸炎2,134件(前月比1.8、前年比1.9)が大きく占めています。RSウイルス感染症262件(前月比1.4、前年比0.3)は例年並に連続して増加してきています。伝染性紅斑257件(前月比1.7、前年比28.6)、流行性耳下腺炎224件(前月比1.8、前年比6.1)は例年よりも明らかに高い値で推移しており、今後の動向に注意が必要です。

(疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症 : 報告数262件(前月比1.4、前年比0.3)。7月から2桁となり、その後は連続して増加しています。例年よりは低い値で推移していますが、例年どおり今後さらに大きく増加していくことが推測されます。今後の動向に注意が必要です。八代(9.3)、熊本(7.9)、菊池(7.0)が多いようです。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数92件(前月比2.1、前年比1.6)。前月比、前年比も増加していますが、本年度は大きなピークがなく推移しています。有明(5.6)、菊池(4.6)が多いようです。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数326件(前月比1.7、前年比1.2)。前月比は増加していますが、例年並みに推移しているようです。天草(13.8)、菊池(11.0)が多くなっています。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数2,134件(前月比1.8、前年比1.9)でした。前月比、前年比とも増加しています。8月は最小値でしたが、9月からは増加に転じています。今後は例年通りに冬期に向けて増加していく可能性が高く、今後の動向に注意が必要です。
5. 水痘 : 報告数35件(前月比1.8、前年比0.1)でした。例年より明らかに低い値で推移しています。水痘ワクチンの定期接種化の効果と考えられます。今後はさらなる減少が期待されます。
6. 手足口病 : 報告数298件(前月比0.5、前年比1.2)でした。本年度は7月をピークに流行を認めましたが、以後は連続して減少しています。菊池(22.6)、有明(14.6)が高いようです。
7. 伝染性紅斑 : 報告数257件(前月比1.7、前年比28.6)。4月から例年より高い値となり、その後も増加しながら、例年よりも著しく高い値で推移しています。10月も本年度で最高値となっていることから、今後の動向に特に注意が必要です。天草(13.3)、菊池(10.0)が多いようです。
8. 突発性発疹 : 報告数177件(前月比1.0、前年比0.8)。例年並で推移しているようです。
9. 百日咳 : 報告数0件(前月比0.0、前年比0.0)。今月の発生はありませんでした。
10. ヘルパンギーナ : 報告数102件(前月比0.5、前年比1.1)と例年並に7月をピークとして、その後は連続して減少しています。菊池(7.0)、天草(5.0)が高いようです。
11. 流行性耳下腺炎 : 報告数224件(前月比1.6、前年比6.1)。例年より明らかに高い値で推移しています。10月は本年度で最高値となっており、今後の動向に注意が必要です。有明(16.0)、人吉(10.7)、山鹿(9.5)と高くなっています。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 :報告はありませんでした。
2. 流行性角結膜炎 :報告数 226 件(前月比 0.8、前年同月 6.5)と先月よりも減少していますが、前年より 6.5 倍の発症です。11 月もまだ多くの発症があり、注意が必要です。年齢別では 30～39 歳台に最も多く発症していますが、1～3 歳の乳幼児層を含め、広い年齢層に広がっています。地区別では熊本 183 件、菊池 9 件、八代 1 件、有明 6 件、天草 27 件と熊本以外では天草での発症が目立ちます。

STD定点

※平成 25 年 1 月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が 13 医療機関から 16 医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 :報告数56件(前月比1.6、前年同月比1.0)で、前月比は増加し、前年同月比はほぼ横ばいです。男女別は、男性26件、女性30件と女性に多く見られています。年齢別は、女性は15～24歳の若い層に20件と多く、男性では20～39歳に21件と多く見られています。地区別は、熊本が40件と断然多く、次いで八代5件、菊池4件、御船3件、有明・宇城各2件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症: 報告数14件(前月比0.8、前年同月比0.8)で前月比・前年同月比共に減少しています。男女別は、男性4件、女性10件と女性に多く見られています。年齢別は、女性は15～54歳の間に分散しています。地区別は、熊本が9件、八代3件、有明・宇城各1件でした。
3. 尖圭コンジローマ :報告数3件(前月比0.6、前年同月比0.3)で、前月比・前年同月比共に減少しています。男女別は、男性1件、女性2件でした。年齢別は、男性は20～24歳1件、女性は20～24歳と30～34歳に各1件でした。地区別は、熊本・八代・宇城各1件でした。
4. 淋菌感染症 :報告数10件(前月比0.6、前年同月比0.5)で、前月比・前年同月比共に減少しています。男女別は、男性7件、女性3件でした。年齢別は、男性は20～24歳に5件と多く見られ、女性は10～14歳に1件、20～24歳に2件でした。地区別は、熊本が10件で他は発生ありませんでした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 : 18件(前月比1.3、前年比0.9)の報告がありました。熊本6件、山鹿1件、阿蘇2件、八代4件、水俣2件、人吉2件、有明1件でした。年齢は0歳:1件、1～4歳:2件、5～9歳:1件、45～49歳:1件、50～54歳:1件、55～59歳:1件、60～64歳:1件、65～69歳:1件、70歳以上:9件でした。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症: 6件(前月比2.0、前年比 1.2)の報告がありました。熊本4件、山鹿1件、有明1件でした。年齢は0歳:1件、1～4歳:2件、5～9歳:1件、70歳以上:2件でした。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症 :報告はありませんでした。(前月比 - 、前年比 -)

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎 :1件(前月比 -、前年比 -)の報告がありました。熊本1件でした。
年齢は70歳以上:1件でした。
2. 無菌性髄膜炎 :5件(前月比 0.5、前年比 0.8)の報告がありました。熊本4件、人吉1件でした。
年齢は5～9歳:2件、10～14歳:1件、40～44歳:1件、45～49歳:1件でした。
3. マイコプラズマ肺炎 :49件(前月比2.2、前年比2.7)の報告がありました。熊本41件、阿蘇3件、水俣1件、
有明4件でした。年齢は0歳:2件、1～4歳:14件、5～9歳:22件、10～14歳:7件、15～
19歳:1件、25～29歳:1件、60～64歳:2件でした。
4. 感染性胃腸炎 :2件(前月比 -、前年比 2.0)の報告がありました。熊本2件でした。
年齢は0歳:1件、1～4歳:1件でした。

届け出対象感染症

- 1類感染症 :報告はありませんでした。
- 2類感染症 :結核 :39件
- 3類感染症 :腸管出血性大腸菌感染症 : 2件
- 4類感染症 :つつが虫病 : 1件
日本紅斑熱 : 4件
レジオネラ症 : 2件
- 5類感染症 :アメーバ赤痢 : 1件
カルバペネム耐性腸内細菌感染症 : 3件
急性脳炎 : 1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症 : 3件
侵襲性肺炎球菌感染症 : 1件
梅毒 : 1件

【訂正】

9月報でも掲載しましたとおり、基幹定点による薬剤耐性緑膿菌感染症の届出(6月:1件、7月:1件、8月:3件)は基準を満たしていなかったことにより、取り下げられました。それにもない、薬剤耐性緑膿菌感染症の届出数は、8月までの累計5件は累計0件に訂正します。